

日台稲門会 ニュースレター 7月号 (2021年6月25日発行)

会報担当：橋本紀明／hashimoto.inforia@gmail.com

日台稲門会会員の皆様

日台稲門会ニュースレター7月号をお届けします。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

1. ご挨拶 (三村会長)

2020年の初めに新型コロナウイルスの感染が報じられてからすでに1年半が過ぎようとしています。しかし、未だ下げ止まりの感もあり、オリンピックまであと1か月に迫っているにも関わらずこれからの方向性もなかなか見えてこない状況です。

そういった中で今回 皆さんが気楽に読めるニュース「最近の話題」をはじめ、「台湾情勢」や「台湾時代の思い出」、「台湾新刊本紹介」を掲載した7月号ニュースレターを発行しました。ぜひお読みください。

2. ワクチンのお礼 (渡邊義典さん)

台湾在住台湾校友会会員で当会でも講演をしてもらった世紀貿易の鄭文哲/鄭世維さんから今回のワクチン無償供与について、お礼の手紙がありましたので報告いたします。

■台湾校友会会員よりお礼の手紙 (鄭文哲/鄭世維/鄭翔安さん、三代早大理工)

いつもお世話になっております。

近頃台湾ではゆるんだ生活により、コロナ感染者が増加し感染が収まらない一方で、ワクチンが十分に確保できないことに、台湾の国民は大変な不安を感じています。こんな緊急な時期に、日本から124万回分のワクチンを台湾にご供与いただける朗報に、台湾国民全体で日本のご厚意に大変感謝しております。

先週金曜日(6月4日)ワクチンが無事に台湾へ運ばれました。日本政府の迅速な働きにより日台関係の友好な絆が一層深まるに違いありません。



弊社としては改めて気を引き締めて防疫を徹底し引き続き経済活動を行います。日本政府と日本国民のご支援に心より感謝申し上げます。早く元の生活に戻り、またお互いの交流ができるようお祈り申し上げます。 世紀貿易 鄭文哲/鄭世維 (6月7日)

下記写真は、鄭さんからいただきました。



ワクチン台湾到着時



搬出作業



台北経済文化代表処謝代表と JAL スタッフ



(参考) ワクチン提供に対して台湾から感謝のメッセージが新聞広告でありました。

(6月13日の二面にわたる全面広告) (産経新聞から)



3. 台湾情勢及び経済ニュース（劉彦甫さん、梶山憲一さん）

今月も劉彦甫さん（WTA 出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事と梶山さんの記事を紹介いたします。

■日本が台湾へワクチン提供「恩返し」の重要な意味（劉彦甫さん） （6月4日付）

中国の妨害で、ワクチン調達に困難を極めていた台湾に対して、5月28日に日本が購入契約しているアストラゼネカ製ワクチン1億2千万回分（6千万人分）の一部を台湾に供給できないか検討しているとのニュースが出た後、中国の牽制（嫌がらせ）が再びあったが、6月4日に無事台湾に届けることが出来た。

本件に関して、ワクチン搬送直前に当会幹事の劉さんの署名記事が出ました。日本政府の台湾へのワクチン供給に対する国民の後押しが、ワクチン供給を実現できたことは、日台関係をさらに一歩進めたように感じた。国際機関を通じての供給だとまた中国の妨害にあり可能性があるため、直接供給するという今回の日本政府の素早い対応は評価に値するとも。是非読んでください。

<https://toyokeizai.net/articles/-/432445>

■日台関連情報にはご注意を（梶山憲一さん）

上記の記事にもあるように、新型コロナのアストラゼネカ（AZ）製ワクチンを日本が送ったことに対して、台湾からは熱い感謝のメッセージが多数が送られてくる一方、それと真逆のような情報もツイッターなどで広がっている。

そのAZワクチン接種後に死亡した人が数十人（6月21日現在・84人）出たため、台湾で反日感情が高まっており、暴動になりかねないといった情報だ。

日本の某誌ネット版に掲載された、とある記事が発端となったようだ。

台湾に反日感情を持った人間がいないことはないが、暴動に発展しそうな動きはなく、台湾で反日感情が高まっているというのは、デマにすぎない。

また、ネット上では、こうしたネガティブな情報がほかにも流れているが、なかには友好的な関係の日台を離間させようとする他国の工作であることが疑われるものもある。日台をめぐる情報には、注意深く接したいものだ。（梶山憲一）

■京セラ、生産設備に過去最高 1700 億円投じる事情 進む生産現場の意識改革、縦割り打破なるか（劉彦甫さん） （6月8日付）

世界的な半導体や電子部品需要の高まりを背景にこれから2～3年は過去最高の売上を出すと強気の見通しをとる京セラの記事です。

<https://toyokeizai.net/articles/-/432971>

■京セラ社長「技能伝承はデジタルで」に込めた覚悟 背景に生産現場の高齢化と人手不足の深刻化(劉彦甫さん) (6月13日付)

過去最高の売上高を目指す京セラ。しかし、一方で人材不足が深刻化しつつあり、その対応をどうするかの記事です。

<https://toyokeizai.net/articles/-/433888>

4. 台湾のチャレンジ (相^{あいきょう}京浩一さん)

今月は、相京さんから台湾校友会理事の張さんを紹介いただき、張さんに台湾の有機農業の取り組みについて説明していただきました。

■日台有機農業の取り組み (張 慧莉さんより) 【日台の有機農業が新たな一步を踏み出しました】



台湾校友会理事の張 慧莉(1990 年文学部卒)と申します。
日頃の早稲田大学を通じた日台友好に感謝しております。今回は台湾産有機農産物のご紹介をさせていただきます。

亜熱帯と熱帯にまたがる台湾からは、バナナやパイナップルのような南国フルーツ以外にも、加工・業務用中心に生鮮品ではレタス、にんじん、ごぼう、キャベツなど、冷凍品では枝豆やホウレンソウが日本へ輸出されています。

現在、脱炭素への取り組みが世界的に加速する中、持続可能な農業の実現に向けて、化学肥料や農薬を使用しない有機農業の拡大に向けた取り組みが行われています。

台湾では「有機農業促進法」が 2019 年 5 月に施行され、有機農業の持続可能な発展が促されることになりました。それ以降、有機農産品の品質を高め、国民の健康を守り、生産者と消費者の両方の權益に配慮し、そして環境の有機生態系、農家の有機生産、消費者の有機生活という目標を達成できるよう取り組んでいます。2020 年 7 月末の時点で、台湾で有機認証された農地面積は 1 万ヘクタールを突破しました。有機農業生産者は 4000 戸以上を数え、そのうち野菜の生産者数は 1883 戸、全体のおよそ 45%を占めます。台湾は、コーヒー、果物、雑穀、お米、農産加工品など 23 種の有機農産物があります。

日台間では 2019 年 10 月、台湾日本関係協会と公益財団法人日本台湾交流協会との間で、「有機食品の輸出入に関する協力の促進に関する覚書」についての署名が行われました。日本の有機 JAS 認証機関から有機認証を得れば、台湾で再度の有機認証を受けずに、有機食品として台湾で販売することができるようになります。この覚書を踏まえ、輸出入の詳細が決定され、今後は、日本または台湾の有機制度による認証を受けた有機農産物等に「有機」等と表示して、相互に輸出入できるようになります。これは農業分野において、日台の有機農業が新たな一歩を踏み出したとすることができます。

次に代表的な有機農産物生産者とその農産物を用いた生産工場、及び、製品をご紹介します。画像は各ホームページやInstagramから引用しています。

◎「大花農場」 HP: <http://www.rosebox.com.tw/>

2008 年に創立された台湾最大の有機バラ栽培をしている農場です。屏東駅から行ける場所にあり、農場総面積が 20 ヘクタール（東京ドームおよそ 4 個分）あります。オーナーの楊さんは、バラの栽培に 20 年以上の経験があります。楊さんは、この 13 年、有機栽培を行っております。3 年間の苦労の末に開発した食用品種もあり、併設されたカフェレストランでは、これらの品種を使った料理を食べることができます。こちらでは「食用バラ」以外に、飲み物やパン製造、料理に使われる「有機バラ花びら液」と有機化粧水などが生産されています。



◎「源順食品有限公司」 HP : <https://www.ysfood1949.com/>

雲林県にあり、100%台湾産の新鮮な有機玄米を使用、食品改良剤を添加せず、有機玄米ビーフン、有機玄米ヌードル、有機玄米ワッフル、有機玄米ヌードルクッキーや、100%台湾産有機蓬莱玄米を研磨し、(精製糖の代わりに)有機ココナッツシュガーを添加している「有機クリスピーライスボール」を製造しています。有機玄米を使用した製品には、豊富な食物繊維や玄米の有効な栄養成分が含まれています。



◎「谷芳有機茶園」 HP : <https://www.gforganictea.com.tw/index>

1871年に開かれ、現在では6代目のオーナーになります。台湾の財團法人慈心有機農業發展基金會の有機認証、国際ISO22000、HACCPに合格した台湾初の合法的な有機農産品一次加工工場です。

製品は、有機野放碧螺春の緑茶ティーバッグ、有機野放柑橘のハニーフレーバー紅茶ティーバッグ、有機濃厚ウーロン茶ティーバッグ、無農薬当方美人茶などがあります。



そのほかにも台湾の有機農産物は、酵素、ドライフルーツ及び農産物加工品など多岐にわたります。台湾は有機農業先進国となる目標を掲げ、「品質の確保」と「供給の安定」が保証できる輸出体制を築こうとしています。これにより安全で良質な台湾の農産品に安心と信頼プラスして、日本の消費者のみなさまへお届けできることを目指しています。日台両国が自由に旅行できる日が来ましたら、日台稲門会のみなさまも、ぜひ、台湾の有機バラ農場や有機茶畑へお越しください。(張 慧莉)

5. 台湾時代の思い出（渡邊義典さん）

6月号に引き続き、渡邊さんに寄稿してもらいました。

■芝山巖 芝山巖学堂 六士先生の墓（その2）

芝山巖については、若林正丈先生の「台湾—変容し躊躇するアイデンティティ」（ちくま新書 2001 年 1 月刊）の冒頭に、台湾の歴史が凝縮された象徴的な場所として書かれています。

また、最近の産経新聞でも芝山巖シリーズが連載されているようですので、拙文の内容が重複しているかもしれませんが、あくまでも小生のアパートの至近距離にあって、毎朝の散歩コースで見たことを書いております。

芝山巖学堂（今は読書室という小さな平屋の一軒家）から恵濟宮へ向かう遊歩道の脇に「同帰所」と大きく書かれた公墓史跡があります。私は毎日この横を通りながら「これは何だろう？」と思っていました。

ある時、台湾の歴史に詳しい人に聞いたところ、初めてその意味が分かりました。俄然台湾の歴史に興味がわきました。それから本格的に台湾の歴史の勉強を始めたのです。

「同帰所」という「公墓」はこの地で行き倒れた人や「分類械闘」で戦死した人などの無縁仏を合葬して祀ってあるお墓です。

行き倒れとはどんな事情なのか？と調べるにしたがって清朝時代の台湾の様子がいろいろとわかってきました。

大陸から台湾へ来た人は極端に男性が多くて、身寄りもないために食を得るために、あちこちさまよっている人が多かったようです。この人たちのことを「羅漢脚」といったそうです。田畑や家も持たず、決まった職もなく、もちろん妻子もなく、賭け事、盗み、武力抗争に明け暮れる流浪の生活で、終日はだしで外觀が仏僧の羅漢に似ていることからこのように呼ばれたそうです。行き倒れの無縁仏も多かったと想像されます。知人から「有唐山公 無唐山媽」という言葉とその歴史的な意味を教えてもらったりしました。

そしてしばしば武力衝突が起き、原籍地の別などによって戦った「分類械闘」、閩粵械闘や漳泉械闘など、あるいは清の役人に対して「三年小乱 五年大叛」のように反乱が頻発した時代でした。特に「林爽文の乱」では芝山巖が戦場にもなったそうで、ここで亡くなった人たちの骨を集めて合葬したのが「同帰所」の始まりだったそうです。

このころの歴史を知ると台湾の根っここのところが少しわかったような気がしました。

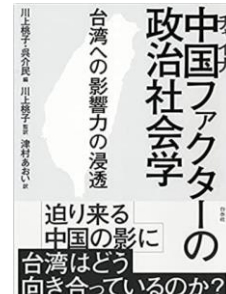
（渡邊義典）

6. 注目の台湾新刊本紹介（6月発売）

■「中国(チャイナ)ファクターの政治社会学:台湾への影響力の浸透」

(JETRO 川上桃子 編・監訳, 台湾中央研究院 呉介民 編、津村あおい訳)
(白水社) (6月16日刊) (税込 2,640 円)

中国は、従来ソフトパワーでの台湾併合策をめざしてきたが、最近ではそれとは全く逆のやり方で台湾を狙っている。そのやり方を「チャイナ・ファクター」として析出し、社会科学の視点で事態を初めて理解する試みを行っている。



■「離散と回帰 「満洲国」の台湾人の記録」(許雪姬 著)(東方書店)

(6月15日刊) (税込 8,800 円)

台湾人による満洲国移民を台湾人による観点から調べたものである。従来ほとんど調査されてこなかった満洲国における台湾人の実態を描き出している貴重な資料である。



■「蒋介石を救った帝国軍人: 台湾軍事顧問団・白団の真相」(野嶋剛

著)(文庫版)(筑摩書房)(6月14日刊)(税込 1,540 円)

(2014年刊行のラストバタリオン(戦闘集団)の文庫化)

戦後の台湾における日本人の軍事顧問『白団』について知っている日本人は多いが、本書は、宿敵であった日本人をなぜ、蒋介石は利用したか、その謎を膨大な資料をもとに分析したものである。



<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784480437440>

7. 台湾交友会より連絡（相京浩一さん）

■東京五大学懇親パーティ in 台北

2020年12月12日に台湾校友会が主催した台北101ビルでの東京五大学懇親会パーティー（早慶明法東）の時に配布された冊子データをいただきましたので紹介します。当日は、蔡総統のご臨席もあり盛況でした。

冊子には、2の台湾よりお礼の手紙で紹介しました鄭文哲さんご家族（三代早大理工学部、写真はお礼の欄に掲載）以外に謝南強さんご家族（四代早大）の写真（下）もありましたので紹介します。写真：謝さんご家族（右から謝國城（銅像）/林新翰/謝怡望/謝南強さん）



8. 日台早慶ゴルフ対抗戦（根本宏児さん）

2021年春季早慶ゴルフ対抗戦は、5月28日（金）習志野カントリークラブ キングコースで開催しました。

今回も早稲田、慶応共に各10名、計20名の参加者での開催となりました。

プレースタート前に、毎回参加頂いていた高橋徹様への黙祷を行い、競技を開始しました。

対抗戦は、早慶各々上位5名のグロススコアでの戦いとなりますが、今回は各5人の合計スコアが全く同じ468となる接戦でした。残念ながら6人目のスコアで、慶応側の勝利となりましたが、久しぶりの接戦であり、次回に期待したいところです。

新ペリア方式での個人戦は、早稲田の関根さんが優勝しました。

次回は10月1日（金）開催の予定ですので、参加希望者は是非幹事までご連絡ください。

幹事：根本（Email: koji050857@gmail.com Tel:090-1114-9866）



9. セミナー報告（6月開催）（小川英郎さん）

■河崎眞澄さんセミナー

一般社団法人日台政策研究所 主催による河崎眞澄さん(『李登輝秘録』を上梓された元産経新聞台北支局長、現論説委員)のセミナーが6月19日に山形で開催されました。李登輝元総統の逸話を交えながら、台湾の新しい流れ3点(①台湾における日本神話の崩壊の兆し、②日本語世代の不在、③日台接近を阻む台湾国内の勢力)の説明もあり、ひしひしと緊張感が伝わるセミナーでした。

日時 2021年6月19日(土)14:00～16:00

場所 山形県生涯学習センター 遊学館

題目 2021年に急浮上した「台湾」の存在感
—海峽有事に日米はどう備えるか—



(産経新聞より引用)

後日 Youtube に配信する予定です。ご期待ください。(小川英郎)

10. 第25期定期総会について（梶山幹事長）

ここしばらくの新型コロナの感染状況と、それへの日本政府や校友会などの対応を考慮して、今年度の定期総会も前期と同様に、会員・会友の皆様に議案書をメールで配信して行うことになりました。ご了解のほど、よろしくお願いいたします。

議案書を添付したメールは、6月26日に発信を予定しています。会員の皆様のご意見を、7月8日まで受け付け、10日のオンラインの定例幹事会にて最終承認（採択）いたします。よろしくお願いいたします。

議事

第1号議案 2020年度事業報告

第2号議案 2020年度決算報告、会計監査報告

第3号議案 2021年度事業計画

第4号議案 2021年度予算案

第5号議案 今期の役員（幹事等）

台湾に関することでしたら、何でも結構ですので、投稿をお願いします。また皆さんが撮られた台湾の写真がありましたら、ニュースレターで活用したいと思いますので、ご協力ください。メールの宛先は、hashimoto.inforia@gmail.comです。

編集後記

■ 遅れていた新型コロナワクチン接種もようやく動き出したようです。高齢者になったばかりの私も6月中旬に無事二回目の接種が終了いたしました。ただ、情けなかったのは、ワクチンの予約（申し込み）のスピードは、生まれた時からデジタル世代の息子にかなわないと知ったことでした。（橋）